

伊勢湾貧酸素情報（第 6 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

先月の観測時に三重県の沿岸域に沿って、広く形成されていましたが 2ppm以下の貧酸素水塊は、湾奥部のみとなりました。
今後、貧酸素状態は解消に向かうものと思われます。

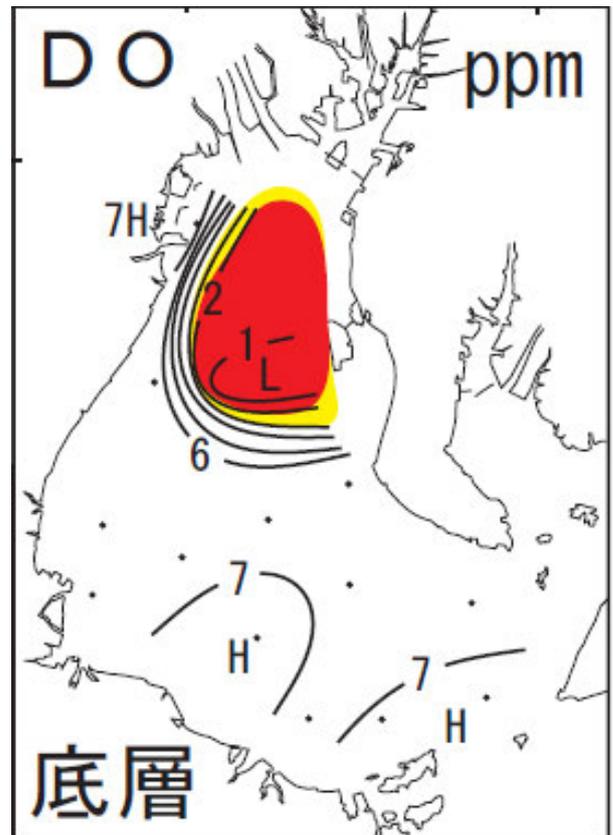
1 1 月 6 日の調査結果

11 月 6 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 18.9～20.0℃、10m で 19.1～20.2℃、底層で 18.9～21.7℃の範囲にあり、表層は平年よりやや高め、10m で平年並からやや高め、底層では平年並となっていました。

DO（溶存酸素量）は表層で 6.8～10.0ppm、10m で 5.8～8.1ppm、底層で 0.9～7.3ppm の範囲にあり、表層、10m、底層とも平年並となっていました。

先月の観測時（10 月 5 日）に三重県の沿岸域に沿って、広く形成されていた 2ppm 以下の貧酸素水塊は、湾奥部のみの形成となりました。

海水の上下混合が起りやすい時期を迎えており、貧酸素状態は解消に向かうものと思われます。



底層貧酸素水塊分布図